（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2672800147		
法人名	特定非営利活動法人　水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	京都府城陽市市辺内垣内4		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672800147&SCD=370

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

旧家の多い地域の住宅街に立地している条件を最大限に生かし、ご近所との関わりを大切にしている。具体的には事業所の裏の農地を借り受けて野菜作りをしているが周りの方々からアドバイスを受け、今では上手に出来るようになった。その縁もあり事業所にこぞって持ってきて下さる。事業所の行事にはチラシを配布しご近所の方々と一緒に楽しむように心がけている。また、城陽市の委託事業として認知予防教室と称して歌のゆりかごを毎月第2土曜日に実施し、事業開始からはじめて72回を数えている。地域の社協の行事、自治会の行事にも参加要請を頂き積極的に顔出しをして地域の中の一員としてお付き合いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは、家族との絆を大切にしながら、住み慣れた地域の中で家庭的な環境を作り、一人ひとりの尊厳ある生活を最後まで支援するという方針を基に運営されています。「暖かい心、優しい手そして笑顔を」をモットーにして利用者の暮らしを支援しています。入居者は1階のデイサービスとの交流を楽しみにされており、デイサービスの利用者や多くのボランティア、地域の方々と交流を図りながら、活動的な毎日を過ごされています。家族と共に入居者を支援する事を基本とし、職員と家族の協力の基に取り組んだターミナルケアの実践経験を重ねられています。又、職員のスキルアップの研修にも積極的に取り組み、話し合いを重ねながら働きやすい環境を作っています。地域の方も気軽に訪問して下さったり、行事への参加もして頂いており、地域とは大変良い関係が築かれている事業所です。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内研修として年度初めに研修会を実施。また、日常の朝礼時にキャッチフレーズを唱和し意識付けを図っている。新人研修にも取り入れている。	毎年、年度初めに目標及び方針についての研修を行っています。より良い生活を作るために毎朝意識づけを行い、日々のケアの中で職員間での確認を行っています。又定期的にも研修を行い振り返りの機会を持って理念の実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にご近所付き合いとして町内会に加入し、回覧版で情報を得ている。ホームの行事はチラシ案内を配布。地域の行事にも積極意的に参加させてもらっている。交流の頻度は高い。	地域の敬老会・お食事会・運動会等の行事のお誘いがあり、その都度参加しています。職員が手伝いに伺う事もあります。又ホームで開催される夏祭等の行事は、地域の毎年の恒例行事としての認識も高まっており、多くの地域の方々やボランティアの参加があります。日常でも、お裾分けを頂いたりと、地域とのかかわりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室をはじめとした地域の方を対象に取り組みを実践。日常的にもまた、ホームの行事の際は介護相談の窓口を設けて支援体制をとり、常に接点を大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いはもちろん、委員の皆様がホームの行事のお手伝いに来て下さっている。実体験を通して地域に発信し、外部からの情報、意見を取り入れレベルアップに繋げている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では参加者（家族代表、自治会役員、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員）にホームの状況報告をし、意見交換を行っています。頂いた意見や要望は日常のケアに反映できるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政も運営推進委員会議に参加、介護相談員の方も月一回訪問してフオロー下さっている。	市が主催する地域連携の勉強会に参加する際には必ず課題を持って参加し、様々な情報を得る事が出来ています。又、月1回介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっています。それらを訪問記録として残し職員と情報を共有しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として毎年研修会を実施。なお、個人を大切に尊重することを前提にケアすることを日日のミーテイングでもフオローしあっている。	職員が講師となり身体拘束についての研修を行っています。実践の中で問題となる点を含め、身体拘束についての事例等の検討もしています。又、日常的に鍵をかけることなく自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修として毎年研修会を実施。なお、個人を大切に尊重することを前提にケアすることを日日のミーテイングでもフオローしあっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の環境では必要性を感じてない。そのため、勉強会もしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方に先に意見を求め、その思いを聞いたうえで説明する様にしている。十分説明し納得の上で契約の履行を行いそのうえで利用してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	友愛ホーム家族会が年4回開催され、ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰで出席し意見交換実施。要望等が発生すれば持ち帰り文書で返答している。	年4回開催される家族会は、家族が主催者となり行われています。又、家族の面会も多くその都度要望・意見・苦情・質問を聞き会議等で話し合い迅速な対応に心がけています。結果は全ての家族に報告し運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、定例の運営会議を開催し、理事者を交え事業の報告と意見交換を実施。ケアの内容はケア会議を別に実施しており問題を残さない取り組みをしている。	職員が活発に意見を言いやすい環境作りを心がけ、業務改善等は職員アンケートにて意見を汲み上げ、気づきやアイデアを運営に取り入れる工夫がなされています。現場で解決できない事柄については幹部が参加するセンター会議で話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は毎日現場に顔を出し、コミュニケーションを取る様に努めている。行事への参加、各会議へのこまめな顔だし、懇親会にも積極的である。また、外部研修にもプッシュし職員のレベルアップに熱心である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の策定を年度末に実施し、外部研修と施設内研修を職員のレベルアップに照らして抜けの無い取り組みで実践に結び付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度から始まった、勉強会の城陽市地域密着型サービスネットワークに参加。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員の入居者担当者を決め、その本人中心にサービス提供を考え、プランづくりと個別の対応を大切に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後家族とともに協力して援助していけるように、必要都度話し合いを持ち本人、家族の希望を聞いて関係を強めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を持ち、本人、家族の希望と必要な項目と支援内容を一緒に決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立を中心にした支援を考え、その人らしい生活スタイルを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに支えるということを頭に置き、外出外泊をしていただき家族の役割を明確にし、共に支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出などにより馴染みのある方との交流、住み慣れた場所への外出をも大切にしている。	家族や古くからの友人の面会も多く、馴染みの方とのつながりが継続できるように支援しています。昔馴染みの場所への外出を計画し実施しています。ホームの方針として、お正月やお盆には必ず家族と共に過ごせるように外泊の支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごしたいという希望がない限り、居間にて一緒にレクリエーションとか家事などでコミュニュケーションを図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、死亡などにより終了したときでも、その後家族から連絡や相談を受けやすい関係を保っている。（友愛だより等）		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握できるように担当者会議を開きプランに反映している。入居者の様子に変化があればケア会議等により検討する。	自分の意向を表現して下さる方に対しては直接希望を聞き対応しています。又、様々なサインを見逃さないように日々の生活の中で担当者が情報を集めその人の立場になり考えながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フエースシートを作り、本人家族からの声などを把握するようしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サマリーなどに記録を残し、日々把握に努め対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や担当者会議などにより、声を出してもらい個々の様子をスタッフ間で検討しプランを作る。	家族の面会時にサービス担当者会議を行い、家族や利用者の意見や要望を聞き、職員の意見も反映させたケアプランを作成しています。また、3ヶ月に1度モニタリングを行い、プランの見直しを行っています。アセスメントにつながるように、ケアプランと日々の記録が連動出来るような取り組みを始めたところです。	職員間では個別の特性の把握はできていますが、記録面でのアセスメントが充分ではありません。アセスメント方式を検討され、計画に反映できるように取り組まれてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を習慣として付け、情報を共有化しチームケアに努めプランつくりに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常日頃から家族と連絡を取り合い、入居者のニーズをいち早くつかむよう努めている。例えば囲碁したいとか、パーマ行きたい等に応えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランテイアさんの協力、地元の行事への参加により顔見知りの方との交流で心の底からの笑顔が見える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診は主治医自らの往診月2回。その他歯科医、接骨院、等の往診も都度。	入居時に主治医を選んで頂いています。月に2回の往診があり、医師からの指示は医療ノートに記載し職員が共有しています。緊急時の対応についても看護職員から家族に連絡しています。病院受診の場合は家族の協力も得られています。口腔ケアについては、独自のブラシを考案して取り組んでいる結果、誤燕性肺炎の予防に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当NSの配置と緊急体制の整備と対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連絡体制、個々の事例あり。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議の実施、様子の変化を中心に話し合い。	ターミナルについての確認を6ヶ月に1度行っています。重度化した場合における指針を基に説明を行い同意を頂いています。職員に対してはターミナルについての勉強会も実施し、家族と医師、ホーム職員が協力し合って、自然な最期を迎えられることを目標に支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修などで勉強会の実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内研修などで勉強会の実施。防災訓練の実施。	年に2回の消防署や地域の消防団の指導の下、地域の方々の参加も得て、様々な場面をを設定して避難訓練を行っています。初期消火の目的で職員全員を対象として、2ヶ月に1度消火器の使用方法の研修も行っています。スプリンクラーも近々設置する予定です。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修などで勉強会の実施により確認。また、個別対応の実施。	言葉使いには気をつけて、威圧感のないようにその場その場に合わせた声かけを行っています。利用者の表情の変化を観察しながら対応しています。希望に合わせて同姓介助にも配慮しています。呼び名については家族の了解を得て、その人が馴染みのある呼び名を使っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応の実施（美容院等）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いを優先し個人スタイルの支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合った生活スタイル。身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りおよび後片付けなど。	利用者の体調に合わせ調子の良い時は、食事の準備から片付けに至るまで職員と一緒に行っています。又、誕生日には利用者と一緒に手作りケーキを作っています。ホーム行事の際には昼食を1階のデイサービスと合同で摂ることもあり、にぎやかな時間になっています。家庭菜園で採れた新鮮な食材が食卓に上がることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録にて体調を観ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導、声かけ、おむつを使っておられる方のおむつ交換。	できる限りトイレでの排泄が出来るように、個々の排泄パターンを排泄表にて確認したり、行動の変化の観察をする事によりトイレ誘導を行い、排泄の支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食ヨーグルト、個別に飲み物、便秘体操の実施。主治医の指導のもと飲み薬。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調とか心の様子などにより対応している。	身体機能の低下でホームでの入浴が困難になった方に対しては、1階のデイサービスを借りて二人介助で入浴をして頂いています。夜間入浴を希望される方にも、職員配置を考慮し要望に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に昼寝のを導入している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、担当NSの指示により服薬の支援をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品等の把握により個別対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力、地域の行事への参加を積極的に行っている。日常的には一階のテラスへの行き来も実施。	日常的に外気浴、散歩は状態に合わせて外出しています。近所のお宅から、ろう梅が咲いているからとお誘いもあり見学に出かけたり、地域の行事への参加ができるように支援がなされています。又、外出の一環として時々1階のデイサービスをのぞく事もあります。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物にい行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、連絡をとれるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物、手作り作品、また、季節の物の置物。それらの環境作りで工夫している。	行事で出かけた際の写真や利用者の書き初め等を掲示し、テーブルの上には庭に咲いていた花が飾られて、季節感が感じられます。トイレや浴室には認識しやすいような表示をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の希望をも聞き入れ対応。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の自宅から親しんでおられたものを持参していただいている。	自宅で使い慣れた、お気に入りの家具を設置したり、家族の写真を部屋に飾ったり、趣味の絵画などを持ち込み、一人ひとりにあった居心地の良い空間作りを支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えた自立出来る環境づくり。手すり、歩きやすいレイアウトの工夫。滑り止め付き靴下カバーを職員含め入居者も同様に一体感で家族を演出している。		